

防災メモ

震災に備えて シリーズ⑥

ガラス、と地震が発生した
そのとき、自分がとる行動は
：
一番危険なのはパニックになっ
てしまうこと。地震発生から
3日間程度の行動パターンを
しっかりと覚えておきましょ
う。

時間と共にすべき行動が 変化する

大きな地震が発生したと
き、まずは身の周りの危険か
ら身を守ります。

最初の大きな揺れは1分間
程度です。火の元などの安全
が確認できたらラジオなどで
情報を得ましょう。海の付近
にいる場合は津波の心配も必
要です。

家屋の損壊や家具の倒壊が
あるような大きな地震の場合
で、近所に一人暮らしの高齢
者や障がい者いる場合は、積
極的に声をかけ、安否確認を
してください。

●問い合わせ先

生活安全課

☎(40) 55555

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- 火の始末はすばやく
大きな揺れの前に、可能ならコンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。
- ドアや窓をあけて、逃げ道を確認
- 落ち着いて、自分の身を守る
机の下などにもぐる。倒れてくる家具や、割れるおそれのある窓ガラスに注意する。



1~2分

火元・家族の
安全を確認

揺れがおさまったら…

- 火元の確認・初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく
ガラスの破片などから足を守る。
- 出火防止を
ガスの元栓を閉め、電気のパレーカーを切る。
- 非常持ち出し品の用意



3分

ラジオ等で
正しい情報をつかむ

- ラジオなどで情報を確認
震度速報が発表される。
- 周囲の様子を確認
- 余震に注意
大きな地震の後には、余震が発生する可能性が大きい。
- 電話はなるべく使わない



震度速報

5分

災害の状況に応じて
冷静に対応

- 隣近所の安全を確認
隣近所に声を掛け、互いの安否を確認する。特に、高齢者や障害者などの災害時要援護者のみの世帯には積極的に声を掛ける。
- 消火・救出活動
隣近所で協力して消火や救出を。自分たちの手に負えない場合は、消防署、警察署へ通報する。
- 子供を迎えに
保育園や小・中学校に子供を迎えに行く。自宅を離れるときは、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。
- 周囲に危険が迫っている場合は速やかに避難を
火災・土砂災害・建物倒壊など、災害の状況に応じて避難を。避難時は、ブロック塀や倒れかけた家屋などに注意する。市街地では、避難に車は使わない。



火事だ〜!

大丈夫ですか?

数時間~ 3日くらい

- 自宅や地域の安全が確認できるまで警戒を
ラジオやテレビなどで正確な情報を入手。
- 生活必需品は備蓄でまかなう
災害発生から三日間くらいは家庭での備蓄でのびのび。外部からの応援を期待しない。
- 壊れた家には入らない
- 避難生活では、集団生活のルールを守る

